

令和2年度 指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	作州民芸館
(2) 指定管理者	所在地 津山市小田中1312-10 名称 城西まちづくり協議会 代表者 会長 高須 昌明
(3) 公の施設の所管部署	産業文化部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	令和元年4月1日 ~ 令和4年3月31日
(5) 評価対象期間	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績	対 年度	令和 年度実績
	来館者数 15,213人 貸室利用件数 105件	-8,720人 -74件	来館者数 23,933人 貸室利用件数 179件	人 件	来館者数 人 貸室利用件数 件
(2) 事業の内容	①開館業務 ②貸室業務 ③自主事業 〔喫茶業務、販売業務、イベント関連業務（ハーブティー教室、野菜と魚の市、まちプラ岡山バスツアー受入れ、ワークショップ、城西難めぐり等）〕				

3 収支の状況

(1) 収入	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績	対 年度	令和 年度実績	
	（指定管理者の収入） 内 訳	総 額 16,512千円	1,213千円	総 額 15,299千円	千円	総 額 千円
	指定管理料	4,989千円	2,778千円	2,211千円	千円	千円
	施設継続・再開事業助成金	20千円	20千円	千円	千円	千円
	利用料金	151千円	-32千円	183千円	千円	千円
	自主事業（カフェ、物販）	10,998千円	-1,653千円	12,651千円	千円	千円
	雑収入	354千円	100千円	254千円	千円	千円
(2) 支出	令和2年度実績	対R元年度	令和元年度実績	対 年度	令和 年度実績	
	（指定管理者の支出） 内 訳	総 額 16,548千円	1,296千円	総 額 15,252千円	千円	総 額 千円
	人件費	3,862千円	224千円	3,638千円	千円	千円
	消耗費	620千円	109千円	511千円	千円	千円
	光熱水費	1,028千円	160千円	868千円	千円	千円
	通信費	125千円	68千円	57千円	千円	千円
	警備委託	172千円	16千円	156千円	千円	千円
	備品費	1,257千円	1,107千円	150千円	千円	千円
	修繕費	18千円	-260千円	278千円	千円	千円
	消防点検費	9千円	5千円	4千円	千円	千円
	保険料	75千円	71千円	4千円	千円	千円
	会費	10千円	-70千円	80千円	千円	千円
	雑費	112千円	5千円	107千円	千円	千円
	自主事業費（仕入れ、人件費、材料費等）	9,260千円	-139千円	9,399千円	千円	千円

4 総合評価結果

(1) アンケート調査等	毎月城西まちづくり協議会で意見を聴取し、スタッフ会議で検討し事業に反映させた。店頭でのお客様の声は常にスタッフで共有し対応している。
(2) 指定管理者の自己評価	<p>喫茶・飲食事業について、特に高齢者の方の利用が多く、交流の場として活用されている。喫茶コーナーの一角に包括支援センター相談コーナーを試験的に設置したところ、その活動が広がり、城西地区の店舗で「高齢者110番」の活動が広がっている。また、弁当や喫茶メニューが好評で地域外の方も含め、多くの方に利用いただいている。</p> <p>販売事業について、地場農産物、農産加工品、パン、菓子類等地場産の商品が人気で来館者が市内広域に広がっている。高齢化している農業生産者の方もまちの駅に出品することを生きがいにくださっている。</p> <p>また、津山民芸協会と連携し、2階の展示コーナーと作品の販売コーナーを充実させることができた。今後はワークショップを開催し、「民芸館」としての活用を充実させるとともに民芸品の販売促進に努めたい。</p> <p>イベント実施・貸室利用促進について、新型コロナウイルスの影響によりイベントが実施できない状況が続いていたが、3月の難めぐりにあわせて、「ハーブティー教室」などを実施できた。今後イベント開催が可能な状況になったら、ワークショップやコンサートなどを企画したい。</p> <p>貸室利用については、コロナの影響が大きく1年を通じて利用が少なかったが、販売促進につながる事業であるため、今後も利用促進に努めたい。</p> <p>観光振興とインフォメーション事業について、城西地域が重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことから、今後はさらにインフォメーションにおける中心的な場所になるため、スタッフの接客マナーや重伝建及び地域の歴史に関する研修を行った。また、西寺町の若手住職が企画・実施するイベント「先達がいっしょにまちめぐり」の出発地になり、申込受付を担うこととなった。コロナ収束後は、観光客に接する機会がさらに増えるため、スタッフの資質向上と土産品の開発が課題と考えている。</p> <p>作州民芸館の運営については、「津山まちの駅城西」として地域内外の人が集える場になることを目指しているが、まちの駅事業にはカフェや販売、調理、運搬など様々な仕事があり、高齢者等の雇用と多くの住民の支えによって運営できている。</p> <p>指定管理3年目も「まちづくりは人づくり」の基本に沿って運営を充実させていきたい。</p>
(3) 市の評価	<p>令和2年度は指定管理者制度導入から2年目であったが、初年度と異なり、新型コロナウイルスの影響により一時期、休館や一部休館になるなど、取り巻く環境は厳しいものであった。</p> <p>その影響を受け、来館者数は前年度比63.5%、貸室利用件数は前年度比58.6%となり、収益も前年度比53.4%と大きく減少し、赤字となった。利用者の多くは地域の高齢者であり、外出自粛の影響や城西まるごと博物館フェアなどのイベントの中止が相次いだことにより、来館者数は年間を通して前年度の水準に回復することはなかった。</p> <p>しかし、自主事業である喫茶事業ではテイクアウトに取り組み、コロナ対策もガイドラインに従い適切に実施するなど工夫と配慮をしながら運営していた。</p> <p>また、津山民芸協会と協力し、民芸品の展示を充実させ、作家の紹介や民芸品の販売も始めるなど、「民芸館」としての役割が十分果たされたことは大きく評価できる。「民芸館」としての企画と取組が他との差別化を進め、「作州民芸館」の付加価値を高めることにつながるから、今後もワークショップなど体験型事業の企画に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>令和3年度も新型コロナウイルスの影響が続いているが、重要伝統的建造物群保存地区の拠点施設として、積極的に自主事業に取り組み、情報発信やスタッフの資質向上、民芸館ならではの企画を推進し、利用者の満足度向上と地域の活性化に努めてほしい。</p>